

少し極端な話をします。

太平洋戦争後、占領下にあった日本はGHQによる間接統治を受けながら「民主国家」の道を歩み始めます。平和で豊かな国へと再興を遂げた日本にあっては、「民主化は良いことだ、米国のおかげだ。」とする考えが広まりました。

さて、皆さんは、GHQ最高司令官マッカーサーの「日本人愚民化政策」をご存知でしょうか。

散々暴れ回った厄介者(日本)により、多くの煮え湯を飲まれた米国の立場で考えてみましょう。やっと捕獲した相手をどうしますか?今の私たちから見ると、厄介者は真先に「北朝鮮」を想像するでしょうが、皆さんがマッカーサーなら、北朝鮮をどうしますか?「目には目を」「やられたらやり返す、倍返しだ!」ですか。それとも、「民主化」を進めますか。

### 民主化の裏に

厄介者であり仇でもある日本に「民主化」を進めるとは、なんて慈悲深いんだ…と思いますね。しかし、(そんな上手い話があるわけない、きっと何か裏があるはずだ。)というクリティカル思考も働きます。

捉えた獣を狂暴化させないためにやることは、ただ一つ。凶器となる牙や爪をもぎ取ること。つまり弱体化させることです。マッカーサーの目からすると日本は「強い求心力のあるリーダーの下、強力な軍事力を持つ政府が、野心的に市場拡大を狙う財閥と結託して植民地の拡大を図り、国民生活を統制する国家」でした。そこで、「民主化」という美名のもとに、日本の弱体化を進めようとした。一民主化とは「全人民を主人公にすることだから、独裁者の出現を許さず、国民すべての声に耳を傾ける政治になる。そしてそれは、リーダーシップの不在につながる、軍事的には弱体化になる。一

「軍事的な弱体化」と言っても、当時の日本の軍事力(兵隊、資源、装備)は米国の足元にも及ばないものです。では、マッカーサー(米国)が惚れた本当の日本の牙や爪とはいったい何だったのでしょか。それは「日本人の精神性」。日本人が日本人であることや、日本人が大切にしてきた心・生活・文化等を崩壊していくことが、「民主化」の裏にあり、その一つが「愚民化政策」だと識者の間で言われています。では、「日本人の精神性」とは、いったいどういうものなのでしょう。戦後80年近くなり、戦争体験はもちろん、当時以前の日本人に宿っていた精神性を語る人は、もはやいなくなりつつあります。



小学部 持久走チャレンジ!

### アゲインストの中で

民主化に付随して核家族化と3S(Screen・Sports・Sex)政策等が進められ、日本の伝統的風習や文化が衰退しました。そして、国民には、愛国心や郷土愛、家族愛が育たないように仕向けられ、自分第一の個人主義や無思考、自己否定(低い自己肯定感)が植え付けられました。同調圧力もしっかりです。

今のご時世は、総理大臣をはじめ、昔は名誉職と言われた人々でも、マスコミからコンプライアンス違反等のスキャンダルを暴かれると、あっけなく葬り去られます。「威厳」という言葉は死語になりつつあります。某総理大臣が「国民の声を聞きます!」と民主的なことを就任当時言っていましたが、不満や問題が噴出するあまり、今は逆に耳を塞ぎたくなる心境ではないかと拝察する次第です。「突破力がない」、「何をしたいかが分からない」「刺激的なカリスマ性がない」と揶揄される始末

です。昨今、日本は強いリーダー、良きリーダーを求めている空気を感じますが、映画に出てくるような清廉潔白、聖人君主的なヒーローの登場を夢見ているのでしょうか。でも、(人の上に立つ立場の人がそんな認識、そんな発言をするなんて信じられない!)という論調で叩く姿勢、自分は棚上げてリーダー依存で何もしない姿勢を続ける限り、夢見るリーダーは決して現れてこないのではないかと思います。実際、強国と呼ばれる国のリーダーは(ん?)と感じる人が多く、むしろ独裁者の雰囲気が出てきます。日本は独裁者を生み出す気運が高まっていやしないかと、私は内心ハラハラしています。

SDGsと相まって、地域コミュニティや住民同士の絆の再生など、原点回帰、温故知新の動きが見られます。西都市教育大綱には、「グローバルな人材の育成」が理念として掲げられています。簡単に言えば、子ども達に国際的な視野と郷土愛をもたせようというもの。課題があるからこそ、メスを入れようとしているわけですが、時代の流れや実態に抗っていくことは、相当の知恵と労力を要することが想像されます。日本は、マッカーサーの呪縛を突き破り、真に平和で豊かな国を作っていくことができるのでしょうか。



中学部 高齢者疑似体験学習

### 賢い人に

極端かつ分かりにくい話で申し訳ありませんでした。今回の私の主訴は、「当事者である私たち教員や大人がやっている教育が『愚民化政策』に加担しているとすれば、憤りを感じずにはいられない。しかし、実際、そうした教育をやってきたのではないかと反省する部分がないわけでもない。」ということです。

社会には様々な問題が山積しています。それを問題とも捉えられない、他人事として見過ごす、直接・間接的と形は違えども自分や愛する人たちに結局は降りかかってくることを認識できないというのは、問題解決にすら至らない危機的状況にあると思います。

一情報に踊らされ、マインドをコントロールされ、人を傷つけ、自分も傷つけてしまう—そんな人間に育てるために教育をしていてではありません。

一足りないこと・ものはたくさんあるけれど、自分の考え方を変えたり、在るものを自分で工夫したりすることによって豊かな生き方を実現できる—こういう賢さを身に付けさせるのが教育の本来の目的だと思います。「勉強なんかせんでもいい」「俺は勉強は苦手だ、好かん」と言う声は、愚民化政策を押し進めた人々の思うつぼになっていると思いませんか。私は、中学生には「あなたは、パティシエになりたいそうだけど、どんなパティシエになりたいのですか?」と問うています。「私の作ったスイーツで家族が幸せなひとときを過ごしてほしい。」「私の独創的なスイーツを見て食べて、わーっと感激や喜びを味わってほしい。」などの答えを期待しています。漁師(農家)になるから、家業を継ぐからという理由で勉強をしないという発想は実にもったいない。いずれその職に就いたとき、「よりおいしい食材を家庭に届けるためにはどうしたらよいか」「人件費や光熱費が高騰する中、収益を上げるためには経営をどうしたらよいか」など、必ず問題(課題)にぶち当たります。法律や制度、社会経済情勢等を学びながら戦略(解決策)を編み出していくことになります。うまくいかなかったときは、自暴自棄にならず別の方法で挑戦をしていきます。詐欺に騙されてはいけません。依存してはなりません。賢さを身に付けるために学ばせたいと思っています。良い年をお迎えください。